

いんぷおみやぎ



令和6年度「家庭の日」絵画・ポスター 優秀作品
「ひまわり畑で家族写真」 塩竈市立第二小学校2年 上野 ひまり さん

CONTENTS

- 2 令和6年度の主な事業
- 3 青少年健全育成応援事業決定団体からの報告
- 4 「家庭の日」作品募集審査結果
- 6 少年の主張宮城県大会結果報告
- 8 青少年健全育成みやぎ県民のつどい
- 10 各種研修会の開催
- 12 少年の主張全国大会「内閣総理大臣賞」受賞

発行・問合せ先

青少年のための宮城県民会議 (とらいう〜す MIYAGI)

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3-8-1
宮城県環境生活部共同参画社会推進課内
TEL: 022-211-2577 FAX: 022-211-2392
E-mail: seisyo9@pref.miyagi.lg.jp

青少年のための宮城県民会議

検索



会員募集中!

明日の未来を担う青少年の健全な育成を願い、私たちの活動にご協力いただける会員を募集しています。申し込みは随時受け付けておりますので、事務局までご連絡ください。

〇年会費 (1口)

正会員	青少年育成機関・団体	5,000円	賛助会員	個人	3,000円
	企業	10,000円		団体	5,000円
				企業	10,000円

令和6年度

青少年のための宮城県民会議の主な事業

令和6年度の総会を、5月29日(月)に、宮城県庁講堂で開催しました。

当日は54名の参加(事前の書面表決提出数68)で、令和5年度の事業報告・決算、令和6年度の事業計画・予算案が、原案のとおり可決・承認されました。

各事業は下記の日程で実施しました。

【主な事業】

- R6. 4.16 会計監査
第1回運営委員会
- 5.27 令和6年度総会
(参加者数54名、宮城県庁講堂)
- 6.11~25 地域研修会(県内5地区会場)
- 7.8~9.6 「家庭の日」作品募集
- 7月~9月 少年の主張地区大会(県内12地区)
- 8.1 第1回研修委員会
- 9.27 少年の主張宮城県大会
(参加者数158名、大郷町文化会館)
- 10.1 第2回研修委員会
- 10.10 「家庭の日」作品審査会
- 11.21 青少年健全育成みやぎ県民のつどい
(参加者数144名、
仙台銀行ホールイズミティ 21)
- 12.3 第2回運営委員会
- 12.9 第1回常任委員会
- 12.19~ 「家庭の日」入選作品展示
(県庁1階ロビー)
- R7. 1.9 第3回研修委員会
- 1.17 研修大会
(参加者数132名、石巻市桃生公民館)
- 2.27 第3回運営委員会
- 3.13 第2回常任委員会



おじゃましました

【出前講座を行っています】

各地区または市町村民会議等で開催される青少年健全育成大会や研修会に、テーマに応じた講師を派遣し健全育成運動の啓発や情報の提供を行います。今年度は以下のとおり実施しました。

「青少年の健全育成講話等」

- 青少年育成利府町民会議
- 東松島市立鳴瀬未来中学校
- 宮城県青少年育成アドバイザー連絡協議会

「青少年のインターネット安全利用講話」

- 宮城学院女子大学
- 塩竈市立浦戸中学校
- 栗原市立金成小中学校
- 塩竈市立第二中学校
- 塩竈市立第三中学校
- 気仙沼市教育サポートセンター青少年支援室
- 青少年のための登米市民会議迫支部
- 青少年のための大崎市民岩出山会議
- 大衡村役場住民生活課
- 富谷市立富谷第二中学校
- 就労移行支援事業所 スイッチ・センダイ
- 宮城県迫桜高等学校

ご依頼をおまちしています

申込みはこちらから→



全国青少年育成県民会議連合会

「青少年指導者等顕彰」受賞

県民会議常任委員 貝山 昭子 様
(仙台地区青少年育成市町村民会議協議会会長)

全国22道県が加盟する全国青少年育成県民会議連合会より、多年に亘る青少年健全育成指導者としての地域活動への功績が認められ、顕彰表彰が授与されました。



R6.7.9青少年育成利府町民会議研修会

青少年健全育成応援事業決定団体からの活動報告

宮城県民会議では正会員または正会員に加盟する団体・グループが主催する青少年健全育成のための活動に、経費の一部補助をしており、今年度は以下の事業に補助しました。

会報「青少年松島」作成事業

青少年健全育成松島町民会議

次代を担う子ども達を「地域で育て、地域で守る」青少年健全育成活動の取組みについて、より多くの方に認知・協力してもらうため、会報誌を6,000部作成し、町内全世帯・各小中学校・関係機関等に配布しました。

昨今、子ども達を取り巻く環境が、目まぐるしく変化していくなか、青少年が未来に希望を持ち、たくましく成長できる環境づくりに、今後も地域全体で取り組んで参ります。



仙台地区青少年健全育成啓発活動事業

仙台地区青少年育成市町村民会議協議会

期日：令和6年11月13日（水）

会場：利府町文化交流センターリフノス多目的ホール

当会と他1団体による合同開催とし、137名の参加がありました。研修会では、利府町文化交流センターリフノスのセンター長野澤令照氏より「未来を拓く青少年を育むために～今、私たちに出来ること～」と題してご講話をいただきました。



「会報すこやか」広報啓発事業

青少年のための大崎市民岩出山会議

明るく健康な地域づくりをとおして、次代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に広報啓発事業を実施しました。

「第36号会報すこやか」は、家庭・地域・学校などを結ぶかけ橋としての役割を担い、皆さんに親しまれ、愛され、そしてひとり一人が身近なものにさせていただくことを願い発行しました。岩出山地域全世帯、構成機関団体、学校等に毎年3月に発行し、地域に根差した広報活動を実施し、改めて健全育成の共通理解を深めることができました。

親子ふれあい事業

東松島市青少年健全育成市民会議

令和6年9月29日（日）に岩手サファリパークへ行きました。親と子、動物とのふれあいや参加者間の交流が深められ、参加した親子からはとても満足という感想をいただきました。

これからも親子が一緒に行える体験などを通して健全育成につながる活動を続けていきたいと思っています。



2024年度全国7地区年長部門事業北海道・東北地区「GIRLS' FUN MEETING in 宮城」

ガールスカウト宮城県連盟

11月2日～4日、松島自然の家を会場に中高生と成人100名以上の参加の下「クリエイティブチャレンジプログラム」体験や演題「生きた未来は自分で作る」の講演、少女実行委員が企画運営をしたミニ運動会や松島散策などの交流会が催され楽しく充実した3日間となりました。



登米市青少年健全育成推進のつどい

青少年のための登米市民会議

令和6年11月14日（木）に登米市豊里公民館を会場として「令和6年度登米市青少年健全育成推進のつどい」を開催しました。

少年の主張登米地区大会優秀賞受賞者の発表や地区活動事例発表のほか、宮城教育大学名誉教授の佐藤静氏をお招きし、「心のセーフティネット～心と命を守るために」と題してご講演をいただきました。



町民のつどい

青少年のための涌谷町民会議

「地域の子どもは地域で育てる」を合い言葉に青少年健全育成を効果的に推進するため、11月29日（金）に涌谷公民館にて「町民のつどい」を開催しました。

涌谷中学校の生徒による意見発表や東北大学加齢医学研究所脳科学部門 認知行動脳科学研究分野及び大学院情報科学研究科 准教授の細田 千尋氏を講師に迎え「脳科学から考えるウェルビーイングな子育て」と題し講演をいただきました。



みんなで行こう♡世代交流バスツアー

こども食堂バンビーニ

10月19日（土）に、貸し切りバスで、大河原町の「とんとんの丘もち豚館」と「金蛇水神社」に行きました。普段外出の機会が少ない、幼児から80代までの参加者37名が、一緒に動物と触れあったり、遊具で遊んだりしました。

大勢で囲むバーベキューは、笑顔あふれる楽しい時間となりました。



「家庭の日」作品募集 審査結果

令和6年7月8日(月)から9月1日(金)まで、「家庭の日」作品の募集を行い、絵画・ポスター部門139点(児童の部103点、生徒の部36点)、川柳部門235句(児童生徒の部187句、一般の部48句)の応募がありました。その中から、入選作品として絵画・ポスター部門20点、川柳部門15句を選出しました。

入選作品は、「家庭の日」への理解を深めるために、令和6年12月19日(木)から令和7年1月9日(木)の期間、県庁ロビーで展示したほか、各会議の場での紹介、カレンダーや啓発物品等への掲載で、広く活用しています。



表紙の
作品

優秀作品

(敬称略)



ひまわり畑で家族写真
塩竈市立第二小学校2年 上野 ひまり



ばーばとじーじの家は楽しかった!夏の思い出〜愛犬と家族〜
仙台市立幸町小学校3年 鈴木 月惟



家族の思い出
富谷市立東向陽台中学校1年 渡部 奏佑



大事にしよう家庭の日
登米市立豊里中学校3年 佐々木 琉奈



優秀作品に選ばれた4名には、11月21日に行われた県民のつどいにて、賞状と記念品が授与されました。

毎月第3日曜日は
「家庭の日」

家族と過ごす
大切な時間を
持ちませんか?

入 選 作 品

(敬称略)

【絵画・ポスター部門】

◆児童の部



たのしいカルタのじかん
亶理町立亶理小学校 1年 佐藤 二葉



みんなのえがお
大衡村立大衡小学校 1年 高橋 祐未



たのしく食べよう
塩竈市立第二小学校 2年 山野部 史乃



みんな楽しくホットケーキ
宮城教育大学附属小学校 3年 野上 愛馨



わたしの毎日は宝物でいっぱい
大崎市立古川北小学校 4年 佐藤 悠



地域を作る家族の笑顔
涌谷町立涌谷第一小学校 5年 明石 頼次



家族みんな笑って過ごす家族の日
多賀城市立天真小学校 5年 山田 心温



ぼくの家族
栗原市立栗駒南小学校 6年 佐藤 羽玖

◆生徒の部



家族の平和
亶理町立亶理中学校 1年 鈴木 智大



たった一人の家族
仙台市立第一中学校 2年 春日 碧



家族でドライブ
宮城県古川黎明中学校 2年 崎野 寛太



妹との思い出
宮城県古川黎明中学校 2年 松江 緋那



家族の会話
利府町立しらかし台中学校 2年 菅田 ひまり



特別な日
宮城県古川黎明中学校 3年 鈴木 はる



あったかい家族
宮城県古川黎明中学校 3年 笠松 杏珠



散歩道
宮城県古川黎明中学校 3年 中野 桜

【川柳部門】

◆児童・生徒の部

ひぎのうえつぎはだあれにしようかな
気仙沼市立面瀬小学校 1年 齋藤 凪

かいものにもつはぼくがもつねママ
栗原市立栗駒南小学校 1年 伊藤 權

かたたきたたくこの手に心こめ
多賀城市立天真小学校 3年 伊藤 溪士朗

たのしい父の背中にあたたい
柴田町立東船岡小学校 5年 森 妃花

大丈夫!!母の言葉はおまじない
宮城教育大学附属小学校 5年 莊司 鳳介

帰省の日母の手握り眠る夜
古川学園高等学校 1年 熊谷 杏奈

おくずかけ祖母と母に教えられ
古川学園高等学校 1年 稲葉 理人

寝落ちして毛布で感じる親の愛
古川学園高等学校 1年 後藤 結希

「おかえり」の声あわせるのまってるの
宮城県立石巻支援学校 高3年 千葉 菜月

面談でいつもと違うお母さん
宮城県立石巻支援学校 高3年 高橋 翔太

◆一般の部
決めた家族会議でパスワード
仙台市太白区 千葉 友幸

大波も小波にしている母の海
仙台市宮城野区 楠本 敏子

寝たふりとかっこつけても抱っこする
気仙沼市 齋藤 祥代

娘の絵我が家の壁は美術館
東松島市 杉山 史乃

絵本から親子の夢は無量大
仙台市青葉区 南部 多喜子

少年の主張

宮城県大会 結果報告

少年の主張宮城県大会を、9月27日(金)に大郷町文化会館で開催しました。県内12地区大会の代表となった13名の中学生が、毎日の生活の中で感じ考えたことなどを、自分の言葉でまとめ、堂々とした発表をしてくださいました。

なお、宮城県知事賞を受賞した栗原南中学校のケイバージーバさんは、全国大会に出場し、見事「内閣総理大臣賞」を受賞されました。(詳細別掲)



宮城県知事賞

「一隅を照らす」

栗原市立栗原南中学校 3年 ケイバージーバ

青少年のための宮城県民会議会長賞

光 登米市立東和中学校 3年 佐藤 光
努力の証 女川町立女川中学校 3年 高橋 莉生



審査結果

優良賞

(県大会出場者全員が受賞・発表順)

前進	富谷市立富谷第二中学校	3年	安田 朋夏
転んで見つけた温かさ	仙台市立高砂中学校	3年	庄司 和生
共に生きる未来を目指して	名取市立増田中学校	3年	高橋 花音
ありのままのうつくしさ	仙台市立台原中学校	3年	佐々木菜乃望
地域の一員として	仙台市立南小泉中学校	3年	庄子 美緒
これまでと、これから	大崎市立古川北中学校	3年	堀江 龍輝
「音のない世界」	仙台市立袋原中学校	3年	菅井 心結
自分への挑戦	蔵王町立円田中学校	3年	樋口 千智
私の羅針盤	気仙沼市立唐桑中学校	3年	堀内 香奈
思いやりの心を持って	仙台市立寺岡中学校	3年	大谷 真瑚

令和6年度宮城県知事賞受賞作品 (全国大会出場 内閣総理大臣賞受賞)

「一隅を照らす」



「一隅を照らす」という言葉を知っていますか？この言葉は、パキスタンとアフガニスタンで35年もの間、病気の人達や貧しい人達のために医療や開拓などの支援活動を行ってきた医師、中村哲さんが好んで使っていた言葉です。

私が中村哲さんのことを知ったのは、小学4年生の頃。「日本人でそんな人がいるなんて……。」「とても勇気のある人だ。」と強い感銘を受けました。

「私も中村さんのようにになりたい……。」

「困っている人達を救いたい。」

自分には今、何ができるのか、自分はどう生きていくのかを考えることが多くなりました。

私は、アフガニスタン人です。パキスタンの小学校に入学しましたが、父の仕事の関係で、4年生からは、日本で生活しています。

6年前に日本に来たときは、家族みんな日本語が全く話せず、言葉の違いや文化の違いに戸惑いました。

パキスタンの学校では、よく分かっていた勉強が、日本の小学校では、全然ついていくことができず……「日本語が分からないから仕方がないか。」と思う自分と「悔しい。何とか分かるようになりたい。」と思っている自分がいました。

日本語が少し分かるようになり、日本の文化にも慣れてきた頃、始まった中学校生活。

待っていたのは、辛い日々……。テストのためにどれだけ勉強しても分からないことだらけで、負けず嫌いな私は、仲のいい友達にも負けたくなかったので、ストレスが重なり、「もう嫌だ。死んでしまいたい……。」

そう思うことが何度もありました。どうしようもなく泣いたこともあります。

そんな絶望的だった私を助けてくれたのは、友達や先生方でした。

栗原市立栗原南中学校 3年 ケイバージーバ

周りの人たちが話を聞いてくれたり、おもしろいことを言って笑わせてくれたりして救ってくれました。両親も、いつも応援してくれました。

「私も周りの人を助けてあげられる存在になりたい。」そう思うようになりました。

アフガニスタンには、病院も水もない場所があります。そこで中村さんは、「一隅を照らす」「自分が今いる場所で、自分にできることを一生懸命やる」といった精神で、医師として、人として多くの苦しむ人達を助けてきたのです。

私の将来の夢は、医師です。現在のアフガニスタンでは、女性が学校に通えるのは小学校までで、女性が教育を受け、就職する機会が奪われています。私の親戚も女性は働いていません。私の母は「自分は勉強できなかったから、ジーバにはさせたい。」と、いつも励ましてくれます。アフガニスタンに住む友達は、「平和な国で学校に行けて、勉強できていいね。」と言って毎日泣いています。

日本に来て、辛かったこともありましたが、今は、日本で勉強ができてることが本当に幸せです。日本の国籍を取得し、大学に入って自分の夢を実現させたいと思っています。

家族と話すパシュート語、ウルドゥー話、ヒンディー語、アラビア語、英語、日本語。私が話せる言語です。それを自分の特技として生かしていきたいです。医師になって、母国のアフガニスタンで病気の人達や貧しい人達を助けてあげたいです。私が働くことが、アフガニスタンの女性達の希望につながる。そう信じています。

人間は一人では生きていけません。人から支えてもらい、人を支えて生きています。私を支えてくれた友達や先生、そして両親に恩返しをするために、「一隅を照らす」パシュート語で(يو كونج روبانه كرن). まずは、今の自分にできることを、やり続け、やり遂げられる人になりたいです。いつか、日本とアフガニスタンを結ぶ架け橋になるために。

光

さとう ひかり
登米市立東和中学校 3年 佐藤 光



私には、両親がいません。8歳の誕生日に母を病気で亡くし、昨年、父も病気で亡くなりました。母が亡くなったとき、周りの大人たちからは「可哀想に…」という声を、たくさん掛けられましたが、幼い私にはその言葉の意味が理解できませんでした。なぜなら私には、父と2人の兄、祖父母がいて、親戚の人たちみんなが支えてくれたからです。特に兄たちは、私に寂しい思いをさせないよう、常に側にいてくれました。母の死は確かに悲しかったのですが、自分を「可哀想だ」と思うことはなかったのです。

父は、私が5年生くらいの頃から体調を崩し、徐々に家にいることが増えていきました。ただの体調不良でないことは、すぐに気がきました。あるとき、父の姿が母と重なって見えることがありました。私は、ハッと思い直して「お父さんは大丈夫。」と自分に言い聞かせ、平常心を保ちました。しかし、とうとう、その時はやってきました。余命一週間。苦しそうな呼吸、力のない声。どんどん弱っていく父。毎日、病院から家に帰ると涙が溢れ、体全体で父の死を拒否していました。

父は宣告された一週間よりも少しだけ長く生きました。最後は、ほとんど話すことができない状態でしたが、苦しさから解かれていく様子は思いのほか冷静に受け止めることができました。父のお通夜・葬儀には、沢山の方が来て下さいました。私にはやはり「可哀想に」という言葉が掛けられました。中学生で両親がいないのですから、当然と言えば当然です。しかし、どうしても私は、その言葉を受け入れることができませんでした。それは強がりではなく、確かな根拠がありました。

記憶の中の母は、いつも私の話を楽しそうに聞いてくれ、優しく笑顔の素敵な人でした。病気の辛さは見せず、ぎゅっと抱きしめら

れたときのあの温かさを今でも覚えています。母が私に残してくれた手紙には、こう書かれてありました。「光ちゃん、寂しい思いをさせてごめんね。生まれてきてくれてありがとう。」

父は入院中、とても苦しそうでしたが、私の不安や恐れを取り除くかのように、決まってこう言うのです。「大丈夫。元気だよ。」と。私が手を握ると、ほとんど入らない力を振り絞って一生懸命握り返してくれました。父は、最後まで頑張ってくれようとしてくれたのです。そんな姿と温もりをもらって、「自分は可哀想な子だ」と、どうして言えるのでしょうか。大切な家族を失うということは、何事にも代え難い喪失感と絶望感を味わいます。しかし、だからといって残された者が可哀想というわけではありません。私には、父と母に愛された日々の思い出があります。それは、誰が何と言おうと、幸せな記憶です。

日本は、先進国の中でも自殺者数が多く、年間2万人を超える尊い命が亡くなっているそうです。これを知って、私はとてもショックを受けました。たとえどんな事情があるにせよ、自分で自分の命を絶つなどということは、あってはならないことだと思うからです。私の両親の命は、自分の意志とは関係なく終わりを迎えました。選べるならば、もっと生きていたかったです。

今、困難に直面し、死を考えている皆さんに私は伝えたい。苦しいとき、辛いときは逃げてもいい。でも、命は捨てないでください。あなたの命は愛されて誕生し、多くの奇跡を経てここにあるのですから。幸せになるためにあるのですから。両親は、私に「光」という名をくれました。光は「心に希望を持たせるもの」という意味を持ちます。私は、両親からもらった名前に誇りと希望を持って生きていこうと思います。

誰かの光となるために。

努力の証

たかはし りお
女川町立女川中学校 3年 高橋 莉生



「努力は必ず報われる。」と、皆さんは思いますか。中学3年になった私は、この言葉に強い反発を覚えました。「努力しても報われないことのほうがはるかに多い。」と。

柔道部に所属している私は、この夏、全国大会を目指して中総体に臨みました。柔道を始めた頃は、できることが増える楽しさと、試合に勝つと喜んでくれる両親の笑顔がともうれしくて、もっともっと強くなりたい、とトレーニングに励んでいました。まさに、努力すればその分結果に表れる、という楽しさに、無我夢中で稽古に明け暮れていました。

そんな状況が一変したのは、中学校に入ってからでした。柔道だけでなく、いろいろな場面で周囲の言動に傷付いたり、思うような結果を得られなかったりしたのです。

「莉生って自己中だね。」

皆が楽しく気持ちよく学校生活を送れるようにと率先して活動した挙句、それは独りよがりだと言われたのです。

また、勝つために必死で体を鍛えていた時には

「すげえ筋肉。そんなに筋肉付けてどうすんの。」

どちらも過去に言われた言葉で、今の私をバカにする人はいません。しかし、私は、努力しても勝てなくなる現実と、過去のこととに囚われて、自信をなくし、最後の中総体が近づくのを怖がっていました。

スポ少でコーチをしている父からアドバイスを受けても

「分かってるし！」

努力している自分に、「もっと頑張れ」と言われているような気がして、素直に聞くことができませんでした。

練習に集中できない日々がしばらく続いたある日、見かねた父が練習を早めに切り上げ、いつもの厳しさとは違う、優しい声で聞いてきました。

「どうして落ち込んでいるんだ。」

思いがあふれ、これまで抱えていた自分の中の苦しみや痛み、不安をぶつけていました。

「なぜ努力しても報われないことばかりなの。どうして必死に練習しているのに負けるの。才能の違い？ だったら努力しても無駄じゃん。なんで人の努力を笑うやつがいるの。」

私が吐き出す言葉を、父と、そばにいた母は、静かに聞いてくれました。私の話が終わると、両親が言いました。

「たとえ結果が出なくても、学んだことがあるはずだ。努力は絶対に無駄にはならない。勝敗が全てではないよ。」

「努力は誰かに見てもらうためにするものではないし、誰かの努力をバカにする人は、その人と同じ土俵に立っていないんだから。」

私は両親の言葉を聞いてハッとしました。

結果こそが、努力の証になる。結果が出なければ意味がない、と思い、これまで自分がしてきた努力を、結果や他者から否定されたように感じていた私に、自信と勇気を与えてくれる言葉でした。私は一人ではない。一人で頑張ってきたのではない。こうして応援してもらえることも、自分が努力してきた証だと気付くことができました。

中総体では、これまで怖気づいていた自分が一度も顔を出すことなく、勝ち進んでいきました。結果は、団体戦第2位で東北大会出場。個人戦では、全国大会出場を果たしました。努力の結果ではあるかもしれませんが、私一人で成し遂げた結果ではありません。

本来三人で組むところを、二人で戦い抜いた団体戦。決勝で大将に敗れた私に、「大丈夫」と優しく背中をさすってくれた仲間の思いも、私の後押しとなりました。仲間、先生、監督、両親。自分の努力を支えてくれた周りの人の存在があってこそその結果だと、心の底から、感謝しています。

皆さんも、時として壁にぶつかり、「自分には無理」と決めつけたり、周りをうらやんだりすることはありませんか。そんな時は、簡単に諦めたり他者の言葉に一喜一憂したりするのではなく、自分のことを思ってくれる人や同じ土俵で頑張る仲間を思い出してください。きっと、皆さんが壁を乗り越える力となってくれるはずです。私もこれからは、自分と同じように悩んでいる人がいたら、その人が顔を上げて前に進めるように力になりたいと思います。

「あなたがしてきた努力は間違っていない。結果ではなく、努力したこと自体に価値がある。」と。



青少年健全育成 みやぎ県民のつどい

期日：令和6年11月21日(木) 会場：仙台銀行ホールイズミティ 21



毎年11月の「みやぎ教育月間」に合わせ、青少年健全育成運動の趣旨を広く県民の皆さんにアピールし、育成運動への理解を深め、協力をいただけるよう開催しています。

今年度も県内各地から青少年健全育成活動に携わる144名の方々が一堂に会しました。はじめに、青少年健全育成に尽力された方々への県民会議会長表彰、並びに「家庭の日」絵画・ポスター優秀作品の表彰や、少年の主張宮城県大会で県知事賞、県民会議会長賞受賞者3名の発表がありました。

その後、基調講演として、「地域の子ども・若者・家庭を支える人の役割と実践」と題し、特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ代表理事 小林 純子氏にご講演いただきました。

基調講演

演題：「地域の子ども・若者・家庭を支える人の役割と実践」

講師：特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ代表理事 小林 純子 氏

〈プロフィール〉

仙台市在住。子育て中にNPO活動に関わり、1998年米国でNPO研修を受けたことをきっかけに、子どもの権利擁護を目的としたNPO団体を設立。その後、仙台市子育てふれあいプラザのびすく仙台や仙台市内4つの児童館等の指定管理などを手がけた。

また、イギリスの虐待防止電話「チャイルドライン」に倣って、2001年「チャイルドラインみやぎ」を開設、現在に至る。東日本大震災時には被災地の子ども・家庭支援を行った。「チャイルドラインみやぎ」は現在、仙台市と宮城県から受託した社会的養護自立支援拠点事業を行っており、虐待などで親と暮らせなかった子どもや若者の自立支援・アフターケア事業を行っている。

講演では、数々の青少年の悩みを受け止め、支援し続けてこられた経験を踏まえ、次の柱立てでお話いただきました。

- (1) 日本・宮城県の「子ども・若者」の現状と課題を、様々なデータや「チャイルドライン」にアクセスしてくる子どもたちの声から考えます。
- (2) 「困った子ども・困った家庭」の陰に「困っている子ども・困っている家庭」があることに気づきましょう。
- (3) 「相談先は数多くあるのに相談できない訳、しない訳」を想像してみましょう。
- (4) 「選ばれる支援者」であるために留意することは何でしょうか。
- (5) すべての人が幸福でいられるように、まずはあなたもセルフケアを。

青少年相談者の8割は「話を聴いてくれるだけでいい」と思っており、「聴くこと」は最高のプレゼントであるという小林講師の熱いメッセージは、地域の子ども・若者・家庭を支えている参加者皆さんのより深い学びになりました。

◇現在のチャイルドライン

全国69団体が協力して全国共通フリーダイヤルを実施

0120-99-7777

チャイルドライン支援センターHP

チャイルドラインは

- ・18才までの子どもや若者のための電話やチャット
- ・なんでもはなせる
- ・お金がかからない

チャイルドラインの約束

- ・ひみつはもてる・なまえはいわなくていい
- ・どんなことでもいっしょにかながえる
- ・きりたいときは電話をきいていい

フリーダイヤル 2023年度発信数は342,338件 着信数は165,872件
平均通話時間 4分49秒

※携帯電話やスマホを持たない子どもでもかけられる「ネット電話」も試行中

チャット

訪問件数 134,593件 (前年度比1,146件増)
書き込み件数 37,174件 (前年度比4,847件増)
対応件数 14,559件 (前年度比2,742件増)

平均対応時間41分49秒

つぶやく

COVID19感染拡大による電話体制の減少への対応策として、2020年6月から、匿名で子どもが気持ちを吐き出す場をHP上に設置。現在月2,000件ほどの書き込み

子どもたちへ渡しているカード

チャイルドラインみやぎ 0120-99-7777

能登の被災地への応援カード

チャイルドラインとして「聴くだけでいいの？」という声も・・・

→しかし、データには、8割ほどの子どもが

「解決が難しいことは自分でもわかっている。」

「でもこの苦しい気持ちを聴いてほしい、わかってほしい」と思っていることが表れている

★「聴く」ことは最高のプレゼント

(電話)

つながりやすい 15%

つながりにくい 85%

(チャット)

つながりやすい 15%

つながりにくい 85%

→チャイルドラインの役割

「聴いてもらう」ことで子どもがエンパワーし、「相談してみよう」という気持ちを起こすことを援助する

チャイルドラインに学ぶ なぜ親や先生に話せないのか

① 言ってもしょうがない(相談しても解決しない)

② 信じてもらえない(決めつけられる)

③ はずかしい(子どもにもプライドがある)

④ 心配をかける(親や先生は忙しそう)

⑤ おおごとになる(かえて自分が不利になる)

⑥ 叱られる(理由も聞いてもらえない)

「親や先生には言えないけれどチャイルドラインになら話せる」と言う子どもたちの本音は・・・

チャイルドラインにアクセスする80%ほどの子どもたちが「話を聴いてくれるだけでいい」と思っている

なぜなら「解決は簡単ではないとわかっている」から

しかし・・・話しているうちに自分で考え、「やってみようかな」～「やってみます」という子もいる。

話してみよう→わかってもらえた→やってみよう→わかってもらえた

ダメだった→もう一度ほかの人に話した→わかってもらえた

わかってもらえ→自信がつく→やってみよう→できた→自信がつく(自尊心が高まる)

子どもは過ちを繰り返して大人になる 命をなくす以外はやり直しがきく

実は大人も同じ 「孤独な子ども・親たちを救うにはどうしたらよいか」

◇支援者としての心がまえ 「見る」「聴く」「つなぐ」

<相手を見る時>

- ・周囲の安全確認
- ・穏やかな表情で接する
- ・相手の表情などを冷静に観察する

<相手の話を「聴く」時>

- ・話すときは静かなところで
- ・秘密は守る
- ・身体的な接触は避ける
- ・話しやすいようなうずきやあいづち
- ・忍耐強く冷静にふるまう
- ・先入観をもたない
- ・同情ではなく共感を示す
- ・相手の力と努力を認める(ほめすぎない)

- ・話すことを無理強いしない
- ・沈黙も受け入れる
- ・他と比較しない
- ・過大評価、過小評価しない
- ・気休めを言わない
- ・自分のことを話さない
- ・情報は確実なことを簡潔に伝える
- ・あいまいな情報は伝えない

<「つなぐ」時>

- ・専門機関に個人情報伝えるときは本人の了解を得る
- ・セーフティネットから落ちないような体制を組み、しっかりと連携できる先を選ぶ
- ・虐待通報は「189(いちちやく)」 DV通報はとりあえず「110」

会長表彰

●青少年健全育成成功労者（個人）－順不同/市町は活動地域－

市町村	氏 名	市町村	氏 名	市町村	氏 名
村 田 町	齋 藤 達 也 様	利 府 町	大 槻 則 夫 様	大 崎 市	歌 野 正 一 様
松 島 町	佐々木 みゆき 様	利 府 町	齋 藤 俊 博 様	登 米 市	及 川 英 之 様
松 島 町	男 澤 裕 様	富 谷 市	安 田 浩 哉 様	登 米 市	河 内 正 治 様
多賀城市	松 山 功 様	東松島市	齋 藤 英 彦 様	登 米 市	小 橋 三 男 様
多賀城市	桐ヶ窪 郁 子 様	東松島市	堀 籠 和 裕 様	栗 原 市	市 川 達 雄 様
名 取 市	今 野 あゆみ 様	大 崎 市	中 澤 淳 様	栗 原 市	栗 原 徹 様
名 取 市	菅 井 美穂子 様				

●青少年健全育成成功労者（団体）

女川町 旭が丘子ども会育成会 様

■設立/昭和57年 ■代表者名/橋野絵美

- すばらしいおながわを創る協議会の下校時の見守り活動に参加
- 地区の盆踊りに参加
- 町のクリーン作戦に参加
- 子ども会への支援・指導



女川町 旭が丘区 様

■設立/昭和57年 ■代表者名/相野谷裕明

- 春秋の交通安全運動期間中の見守り・あいさつの実施
- すばらしいおながわを創る協議会の下校時の見守り活動に参加
- 盆踊りの開催
- 子どもの獅子振りの育成



気仙沼市 階上地区青少年育成協議会 様

■設立/昭和60年 ■代表者名/菊田 篤

- 会報「みんなの輪」の発行及び毎戸配布
- 教育研修会・講演会の開催
- 「110番の家」の確認・のぼり旗作成
- 防犯灯の設置
- 交通安全標語の募集と看板の設置等



●在学青少年社会参加活動善行者（団体）

塩竈市 ジュニア・リーダー「杉の子村」 様

■設立/昭和48年 ■代表者名/伊藤芽依

- 季節にまつわる企画や、体験会等自主企画のイベントを開催
- 子ども会行事での運営協力
- 子ども会主催事業でのコーナー担当
- 祭りやイベント・地域活動へボランティアとして参加



利府町 ジュニア・リーダー「十符っ子」 様

■設立/昭和46年 ■代表者名/大枝世奈

- 各種研修会にて参加した小中学生への指導
- 世代間交流事業にて講師として指導
- 町主催イベントの運営補助やサポート
- 町内で実施される各種行事へ派遣参加



石巻市 河南アパッチ・ボランティアサークル 様

■設立/昭和46年 ■代表者名/門間晴紀

- 子ども会や社会教育団体等からの派遣要請による活動
- 各種研修会への参加
- 地域活動への参加・協力
- 定例会・自主研修会（各月1回程度開催）
- 自主企画行事の開催や他サークル主催行事への協力



加美町 ジュニア・リーダーサークル「どれミッキ」 様

■設立/平成15年 ■代表者名/佐々木唯花

- 定例会の開催
- 町や公民館及び育成会事業への派遣
- 県子連主催の技術研修会等への参加



地域研修会を開催

青少年育成推進指導員、市町村民会議構成員、市町村担当者を対象にした、令和6年度の地域研修会を、県内の5会場にて開催しました。研修会では、近年課題となっている青少年のインターネット安全利用についての講話と、推進指導員活動の報告や情報交換などを行いました。



◆会場〈参加者数〉

仙南・仙台南地区	－ 6月11日(火)	大河原合同庁舎	〈29名〉
石巻地区	－ 6月14日(金)	石巻合同庁舎	〈16名〉
登米・気仙沼地区	－ 6月18日(火)	登米合同庁舎	〈14名〉
仙台市・仙台北地区	－ 6月21日(金)	宮城県自治会館	〈32名〉
北部地区	－ 6月25日(火)	大崎合同庁舎	〈36名〉

講話 「インターネットの安全安心利用について」

講師：宮城県共同参画社会推進課 青少年育成班 品川 智彦

青少年のインターネット利用の実態をとおり、インターネットトラブルに巻き込まれやすい事例を紹介し、トラブルに巻き込まれないための家庭でのルールづくりやフィルタリングの必要性、困ったときの相談先などについて話がありました。

(参加者から)

- インターネット利用上で改めて、成長に応じたフィルタリングの選択、家庭のルールを作る、守ることの大切さがわかりました。
- すごいスピードで子どもたちがSNSの黒いワナにハマっているかと憂えています。子どもたちにも啓蒙の機会をもっともっと増やして欲しいと思います。
- 保護者としても育成会としても大変参考になりました。子どもへのスマホコントロールは難しいのが現状。しかし、リスクや対応の難しさを伝えたい。

- 自撮り、又簡単に送信しない等、頭で理解できても、実際にこんなに多いとはびっくりでした。



情報交換

令和5年度の「活動報告」を参考に、地域での活動の様子を話していただいたり、地域で抱える課題や実情などざっくばらんに懇談していただきました。

(参加者から)

- 各地区活動状況が参考になった。地域の子どもたちは、学校、家庭、地域で守ることを着実に実行されていることに感銘致しました。
- 活動報告書だけではわからない、生きた内容（詳細）を知ることができて大変参考になった。

- 青少年健全育成は、青少年育成推進指導員はもとより、町内会から小中学校、さらに子ども会育成会などと協力しての活動だということを改めて感じた。そして、防災訓練まで参加していることが参考になりました。
- 全体で聞くとなかなか話がまとまらない。グループワークをした後に、ポイントをみなさんと共有する方が具体的に話題がつかめるのでは。
- 各地域の推進員さんが活動されているのを聞き、私なりに、今後の活動への心かけのチャンス頂きました。

アンケートより

－ 回答者数53／青少年育成推進指導員出席者数64 －

	大変参考になった	まあまあ参考になった	あまり参考にならなかった	まったく参考にならなかった	無回答
講話	28	23	1	0	1
情報交換	26	21	1	2	3



研 修 大 会

大会テーマ：「地域が一体となって取り組む青少年健全育成」

期日：令和7年1月31日(金) 会場：石巻市桃生公民館

令和6年度の研修大会を、石巻市桃生公民館で開催しました。

事前の研修委員会で、各地域で青少年健全育成活動を行ううえで、青少年の居場所の一つである地域の力を高め、地域の力を見直し生かせるような研修内容を検討し、講演と分科会を行うことで決定しました。

講 演 「安全安心な人にやさしいまちづくり」～地域のつながりを生かして～

発表者：石巻専修大学経営学部 教授 庄子 真岐 氏

(プロフィール)

仙台市出身。東北大学農学部を卒業し、企業に就職後「まちづくりに関わりたい」という10代の頃からの夢をかなえるため、大学院へ進学。現在は、石巻専修大学で主に観光学と地域経営論について講義を行っているほか、宮城大学や宮城学院女子大学でも授業を受け持つ。

先生の専門分野は、地域計画や観光によるまちづくりで、特に震災後の被災地をはじめ、観光資源に恵まれていないと思われるような地域の掘り起こしをテーマに、研究や研修を重ねている。



講演では、安全・安心なまちづくり、安全であるが安心できない問題、地域の大人や子どもたちを活動に誘うにはどうすれば良

いか等、具体例を挙げながら、わかりやすく説明していただきました。また、先生の子育て中の外国での体験等、印象に残るお話しも伺うことができました。

参加者からは、「難しい理論もとても分かりやすかった。」「自分の地域の活動にも生かせる。」「一歩踏み出してみようと思った。」等、今後の地域活動を後押しするような感想をたくさんいただき、たいへん有意義

な時間を共有することができました。

(講演の感想)

- 地域のつながりを生かすためにはどうするかについて、参加するきっかけづくりを自ら積極的に行動を起こすことが必要と感じた。また、他者に配慮しながらも声掛けしコミュニケーションを図る重要性も感じました。
- 自分が考えていた安全安心の概念が変わった。
- 安全・安心を本当の意味として考える機会となり、その違いと居場所の大切さを感じた。
- 現状をふまえてからの、事例の取り組み方が理解しやすかった。地域活動をしていると、どちらかというと地元出身者よりも他地区から来た人たちがの方が積極的に参加してくれている気がする。

(分科会の感想)

- 地域の問題について広く話し合うことができた、地域に今あるものに着目したいと思った。
- 各地域の“やさしいまちづくり”の取り組みを教えて頂いて参考になりました。どちらの地域も、地域で子どもを育てる事を大切に考えていて、具体的な事例も発信して下さり良かったです。
- 地域の活動について、成功例や課題についてのお話を伺うことができよかった。今後の活動に生かしていきたい。子どもたちの視点を生かした企画が大切。子どもたちは忙しいが、積極的に関わらせることが必要である。地域のネットワーク作りが子どもの居場所作り、地域での子育てに必要と思う。
- 気づきをたくさんいただいた、良い話し合いの席でした。皆さんそれぞれ地域の特性、特産を生かした場で、子

もさん、若者たちと一緒に、活動を生み出して奮闘されている様子が感銘を受け、勇気を頂きました。

- 居場所作りの大事さを感じさせられました。また、今まで自分たちが行ってきた事業はそのまま続けていっていいと思って良かったです。ジュニアリーダーの育成の話がとても良かったです。子どもたちの活躍できる場所が、これからとても必要ではと考えさせられました。
- どの地区も子どもたちが少なくなっていることがあげられていた。地域で子どもたちがたくさんいる地区と子どもたちがいない地区での行事の組み方は、なかなか難しいなと思いました。今日いらした方々には、「地域のために何かしたい」と考えている方がたくさんいらしゃったので、今日の話合いの中からまた少しでも地域活動が活性化してくれることを祈ります。



【令和6年度研修委員】

〈研修委員長〉佐藤 文則(登米地区)

〈研 修 委 員〉小泉 勇(仙南地区) 荻原 勝(仙台地区)
小野寺幸揮(栗原地区) 佐藤 清子(石巻地区)
沼田 裕光(石巻地区) 佐々木 真(気仙沼本吉地区)

少年の主張全国大会 内閣総理大臣賞受賞



令和6年11月24日(日)に行われた「第46回少年の主張全国大会～わたしの主張2024～」にて、宮城県代表の栗原市立栗原南中学校3年のケイバーさん(ケイバーバさん)が、北海道・東北ブロック代表として出場し、見事内閣総理大臣賞を受賞されました。宮城県代表が同賞を受賞するのは、平成25年大会以来2回目となります。

また、12月18日には宮城県庁を訪れ、村井知事に受賞の報告を行いました。ケイバーさんは「中村哲さんやアフガニスタンの女性のことを知ってもらいたいと思い作文を書いた。内閣総理大臣賞受賞は夢のようで、応援してくれた人に感謝の気持ちを伝えたい」と話し、知事からは「医師になるという夢を叶え、アフガニスタンと日本の架け橋になることを期待しています」との激励をいただきました。



第46回少年の主張全国大会



宮城県ネクストリーダー養成塾



これからの宮城を支える次代のリーダーを育成することを目的として、県内の中学生を対象に「宮城県ネクストリーダー養成塾」を開催しています。研修では、様々な分野で活躍されている方々からの講話や同世代の仲間たちとのワークショップ、意見発表を通して、考える力やリーダーシップを養います。



普段出会う機会が少ない他校の生徒と一緒に成長するチャンスです。令和7年度も開催しますので、ぜひご参加ください。

みやぎの青少年意見募集事業

若い世代の視点を県政に反映させることを目的として、県内の青少年を対象に「みやぎの青少年意見募集事業」を実施しています。県の政策課題などについて、アンケートを行うとともに、県の担当職員や同世代の仲間たちと意見交換を行う「意見交換会」を開催します。若い世代の皆さんからの意見をお待ちしています。



インターネット安全安心 利用啓発動画

青少年がインターネットのトラブルに巻き込まれないために、知ってほしいポイントをまとめた動画(YouTube)を県ホームページに掲載しています。

学校の授業や保護者の方の勉強会など、様々な場面でご活用ください。

動画はコチラから

【青少年の皆さんへ】
(4分)



【保護者の皆さんへ】
(5分)

